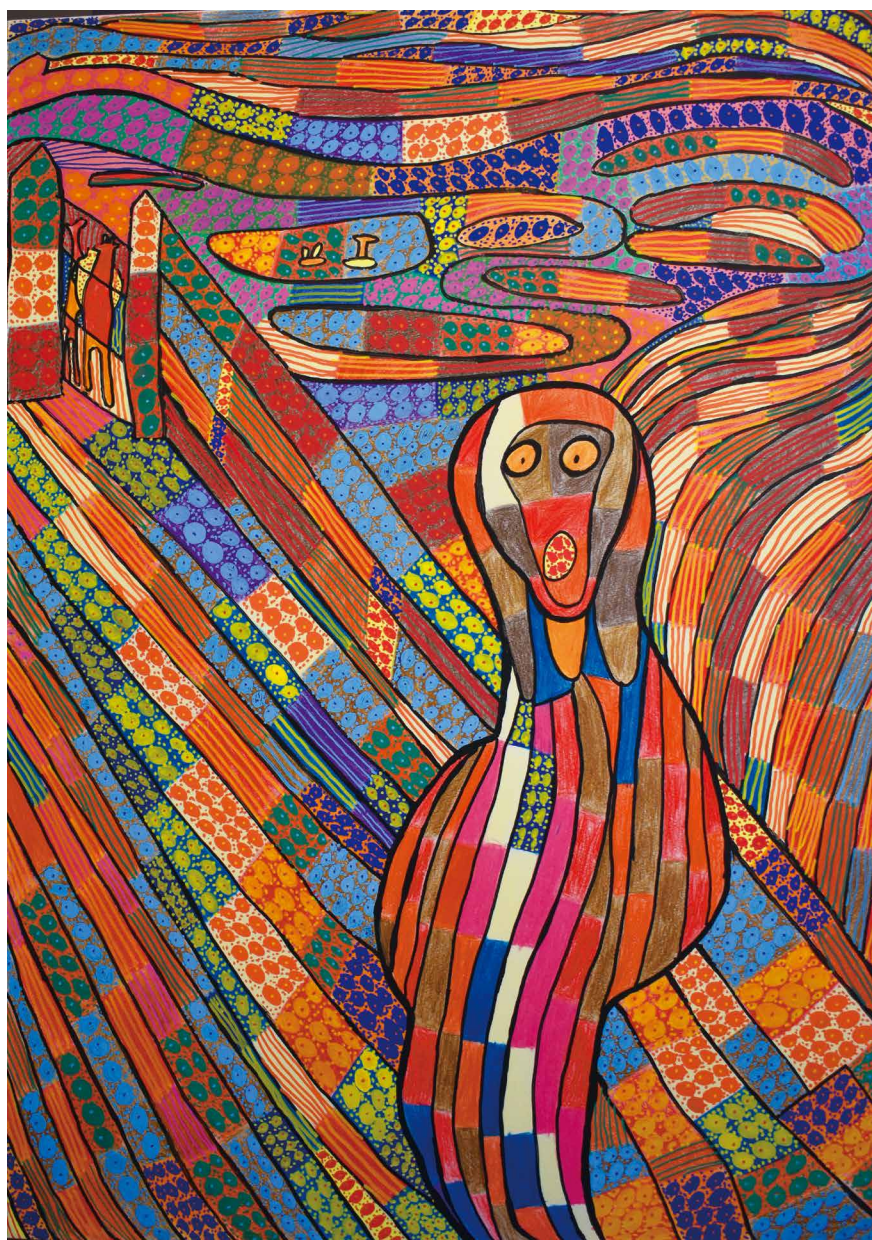


# RKU Today

2022

[学長×副学長 special 対談]  
SDGs 担当として就任の  
三木副学長に聞く!



# キャンパス百景

Campus selection vol.03

## 新松戸キャンパス1号館展示

### 「龍の目覚め」「朝の感」

毎日書道展の最高賞である「会員賞」の受賞歴がある徳村先生（流通経済大学付属柏高等学校教諭）から寄贈された作品のうち、新松戸キャンパス1号館に展示されている作品をご紹介します。



「龍の目覚め」  
龍は眠る  
千年を越して  
斜めに生きる  
老樹のその根の姿となり  
巖の肌を霧に隠して  
凍る山中に眠る  
その龍が目覚める



「朝の感」  
一群の燕が青い背を揃へて  
大空を翔つてゐる  
その舞ひの輪は銀の鎖となり  
美しい刺繍となり  
いつまでも空中に消えずに

RKU Today  
2022

表紙イラスト：  
石毛尚吾「ムシの「叫び」」  
(NPO法人 グループ彩 生活工房)

vol.42

CONTENTS

#### 03 キャンパス百景

新松戸キャンパス1号館展示  
「龍の目覚め」「朝の感」

#### 04 学長×副学長 special 対談

SDG s担当として  
就任の三木副学長に聞く！

#### 06 特集

流経大から発信するSDGsプロジェクト

#### 09 部活・サークル紹介

吹奏楽部

#### 10 学生ピックアップ

岡田怜磨さん・須藤大介さん・鶴田紘也さん・森山悠宇さん  
(青春祭 2021 実行委員会)

#### 12 教職員紹介

大久保和宣 准教授／谷口佳菜子 准教授／鴻巣 快さん

#### 13 付属柏高等学校ニュース

流輝会が「母校創立35周年記念同窓会」を  
オンラインで開催 ほか

#### 14

#### NEWS & TOPICS

「食=SHOKUプロジェクト」始動／「HERS」ワークショップ開催／日刊スポーツ新聞にコラボ記事掲載／「学生が創る動画プロジェクト」が始動／埼玉県戸田市と包括連携協定を締結／サムソン・ディランゴさん男子1部10000m優勝／関東大学サッカー1部リーグ優勝／本学サッカー部から12人がJリーグへ／硬式野球部が令和3年度秋季リーグ優勝／福井准教授の執筆書籍が「地理空間学会 学術賞」を受賞／児玉教授の共同執筆書籍が国際ブドウ・ワイン機構(OIV)より表彰／本学主催「であうアート展」の様子がNHKで取り上げられました

# SDGs 担当として就任の 三木副学長に聞く!

流通経済大学学長  
上野 裕一

日通学園理事長代理、流通経済大学ラグビー部 CEO、アジアラグビー協会副会長、一般社団法人ジャパン・エス・アール会長、総合型地域クラブNPO法人クラブドラゴンズ理事長

【経歴】  
日本体育大学大学院体育学研究科修士課程修了、弘前大学大学院医学研究科博士課程修了  
日本体育大学助手、オタコ大学体育学部客員研究員、流通経済大学スポーツ健康科学部長などを経て2021年より現職



### 三木副学長に期待すること

「女性初の副学長として、また SDGs 担当として、大学自体を生まれ変わらせてくださることを期待しています。女子学生・女性教職員・LGBTQ などへの配慮や取り組みに関して、本学の掲げる『誰一人取り残さない』という考え方とともに、学内外に広めていただきたいです」

### 就任前の RKU への印象

「私の専門に深く関わるスポーツコミュニケーション学科を開設した大学、という印象がありました。スポーツとコミュニケーションを結びつける視点がある大学だということに惹かれて、異動を決意しました」

三木 ひろみ

流通経済大学 SDGs 担当副学長

国際交流センター長、ダイバーシティ共創センター設置準備委員長、日本体育・スポーツ・健康学会理事、日本スポーツ心理学会理事、日本体育心理学会理事、日本スポーツ教育学会理事、日本体育科教育学会理事、International Journal of Sport and Health Sciences 編集委員長

【経歴】  
筑波大学にて博士(体育科学)取得  
筑波大学体育系講師、筑波大学大学院修士課程教育研究科准教授、筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターダイバーシティ部門長などを経て、2017年より流通経済大学スポーツコミュニケーション学科教授、2021年より現職



分たちのやっていることをチェックしていく。そういうことも必要だと考えています。

**上野学長**——三木先生はこれから設置されるダイバーシティ共創センターの委員長でいらつしやいます。どういう意識、方向性をもってあたりとお考えですか？

**三木副学長**——以前おりました筑波大学のダイバーシティ部門では、女性活躍のための活動が中心でした。大学という環境の中では、女性は少数派で男性は多数派なので、多数派に合わせて作られた仕組みは、女性には不便利です。その不便さを少しでも解消して、女性の教職員をサポートしたり元気づけたりすることが主な仕事でした。

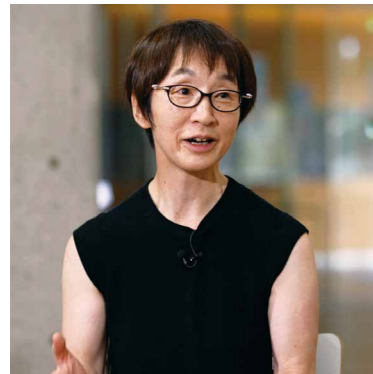
本学のダイバーシティ共創センターでも、LGBTQの方や、留学生、障がいをもっている方など、少数派の人たちにはいろいろな不便があつて支援が必要です。どのようなタイプの少数派の人たちに対しても、そのギャップを埋めて多数派の人たちと同じ活動ができる保証をしていかななくてはならない。本学の「誰一人取り残さない」という考えと通じているので、その施策をしっかりと行っていく



と思います。

それに加えて、従来の仕組みが当たり前になつていて多数派の人たちにとっては、少数派の人たちの感じている不便や、どうしてこういうことが起きているのかという疑問、怒りや困惑を知ることが、新たな気づきや発想を生む成長のチャンスではないか、とも思っています。その気づきが、持続可能な発展をしていくためのアイデアになります。

積極的にそういう課題や不満を発信してもらつて、これまでにない大学の環境や体制をつくっていく。多様な人たちの視点を積極的に活用して、もう一段、二段



と成長していくことを考えています。

**上野学長**——私の専門とするラグビーは、昔から男性のスポーツだといわれるものでした。まさにそういう世界で生きてきたものですから、社会の中で男性という多数派に属してきた中から生まれ、凝り固まったアイデアでいろいろなることを決定してきたのかもしれない。

今回三木先生をはじめ、多様な考えをもつ方々と仕事を共にしていくことで、ダイバーシティという考え方にとても共感をもつようになりました。特に三木先生とお話していると、まったく違う視点や考え方が見られるようになったと思います。私自身、勉強をしている最中だという実感が

**上野学長**——三木先生に副学長になつていただき、特にSDGsについてご担当いただきたいと思っております。今までの経歴などを踏まえ、本学の学生たちに伝えたいこと、先生が意識しておきたいことなどはありますか？

**三木副学長**——「世の中の役に立ちたい」という気持ちを持つことは理想ですが、そのように気張らなくてもいいと思います。自分が毎日幸せに過ごしたいと思ひ、それぞれが元気に活動できるようにするにはどうしたらいいかについて、みんなと一緒に考えていけば、それでもいいと思います。みんなで考えてみんなでチャレンジしていけば、思いがけないアイデアが浮かぶと思いますし、自分のためだけでなく、自然と人のためになるアイデアが出てくると思います。

**上野学長**——特にSDGsに関



して、これから注力してやっていきたいというポイントはありますか？

**三木副学長**——「持続可能」という言葉には、普通は持続することが不可能なことを、工夫や努力で持続できるようにしよう、という意味が込められていると思います。なぜ持続が難しいのか、どうしたら持続可能になるのかという部分を意識しながら、今自



最後に、私に対して何かリクエストはありますか？

**三木副学長**——上野学長は、そのお立場上、いろいろな人たちから一斉に不満や要望を投げかけられているかと思ひます。でも、すべてに応えるような解答を出すことは無理です。多様な人々から話を聴く、厳しい意見にも耳を傾けるという仕事は、ダイバーシティ共創センターの私たちがやっていくことだと思ひます。上野学長は気にせず、ご自分の持つ理想の流通経済大学に向かつて進んでいっていいと思ひます。

多様性を活かすように活動しているスタッフと、一途な理想を追い求める上野学長とでつくるからこそ、流通経済大学が素晴らしい

### 対談が終わってのお互いの印象は？

多くの人を惹きつける豪快さと、多くの人から愛され気にかけてもらえる繊細さ、その両方をお持ちの方だと感じました。



三木副学長

極めてクレバーで、ストレートに物事に突き進む方だと感じました。私には見えない面からのアドバイスをいただけると期待しています！



上野学長

いかたちになつていくのではないかと思います。バランスは私たちが方でとりますから(笑)。  
**上野学長**——なんだか私がとても頑固なようで……いや、ありがとうございます(笑)。

# 03 博報堂との特別連携講座の設置

「課外活動強化部\*の活動を一般学生とも共有することで、課外活動強化部の活躍を大学全体の資産にする」ことをテーマに、学生がワークを進めながら、その活動をどのように事業展開に結びつけるかを学ぶ試みです。博報堂でスポーツマーケティングを実施している現役社員の方を講師に迎え、2021年12月の土曜に、90分の講義を6回、連続3週間にわたって実施。今年度は対面:24人、オンライン:12人の計36人が参加しました。2022年度からは実施主体を「キャリアセンター(仮称)」に移行し、より密度の濃い授業展開をすべく、内容の再構築を進めています。  
\*所属学生たちが、頂点を目指して思い切り頑張るよう、本学が強化部として指定し、支援を行う課外活動団体のこと。



特別講義では質疑も活発に行われた

# 04 ダイバーシティ共創センター設立

ダイバーシティ共創センターは、「RRV」に沿って各方面と連携していく際の司令塔となる組織です。学内の多様な学生をサポートし、結びつけるだけでなく、その学生を外の世界と結びつける、また外の世界の様々な困難やニーズが持ち込まれ、ともに解決に向かって模索する場を目指しています。正式には2022年4月の設立ですが、準備室の形で、先行して制度や設備の改修に取り組んでいます。



11月にスタートしたLGBTQに関する職員研修ではオンデマンド方式を採用

# 日本知的障害者 チアリーディング 協会への支援

# 06

障がい者チアリーディングの普及に向け、日本知的障害者チアリーディング協会への支援を実施していきます。具体的には、2022年3月から障がい者チアリーディングのクラスを新松戸キャンパス2号館体育館で展開することを念頭に、2021年11月7日には実証実験も行いました。障がい者チアリーディングは2024年ロサンゼルス・パラリンピックでの種目採用が期待されており、本学で演技指導を受け、錬成した選手のパラリンピック出場も期待できます。また、本学の社会学部やダンス部などに所属する学生にとっては、障がい者支援の機会としても重要な場となることでしょう。



新松戸キャンパス2号館体育館で障がい者チアリーディングの発表会を行う、「実証実験」を実施



名古屋市などで中学校の部活動のアウトソーシングを展開しているリーフラス社と連携協定を結び、2022年1月からの実施を目的に、新松戸周辺の小学校に通う児童向けの「ダンスクラス流経スクール」の開設を進めています。教室には新松戸キャンパス2号館の体育館を利用。将来的にはダンスの指導者に本学の学生を募り、地域社会への貢献、連携だけでなく、学生のキャリア形成にも寄与することを構想しています。また、大学の資源を有効活用しつつ、共催者としての収益を上げていくことで、恒常的な開催とさらなる展開を目指しています。

# 05 流経スクールの開設

ダンスクラス



流通経済大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



# 流経大から発信するSDGsプロジェクト

2020年4月より上野学長主導のもと始まった「Reborn RKU Vision (RRV)」は、SDGsの達成を中核としつつ、最高学府たる大学が最も重要にしなければならない「教育・研究」、大学の主役である学生の「キャンパスライフ」、そして本学が誇りを持って存在していくための「地域・社会との連携」という3点のさらなる充実を企図しています。そのために、新松戸キャンパスにおいては「アート化」を、龍ヶ崎キャンパスにおいては「パーク化」を掲げ、包括的な体制作りと、各プロジェクトの企画・実行を推進してきました。今号では、そうした大学発信のSDGs関連プロジェクトに関し、これまでとこれからを、詳しくご紹介します。



龍ヶ崎キャンパス2号館では吹き抜けを使ったアート空間が出現した



「生活工房」のアーティストによる制作場面を公開

# 01

# 「であうアート」展の開催

NHKサービスセンターとの協働プロジェクト。千葉県成田市の障がい者施設「生活工房」所属のアーティスト7人の作品およそ100点を、本学キャンパスに展示し、無料公開しました。実施にあたっては社会学部の教員と学生が主体となり、2021年10月2日～17日に新松戸キャンパスで、10月20日～31日に龍ヶ崎キャンパスで開催。延べ2,097人が訪れました。本学キャンパスを、障がいを持つ作家と学生、そして市民が「であう」場に、との思いで「であうアート展」と名付けられたこの試みは、多方面でも評価を受け、2月に東京・銀座のRICOHアートギャラリーでも開催される予定です。

# 02

# 食 = SHOKU プロジェクト発足

本学の女性教員が中心となり立ち上がったプロジェクト。開始後3年を以て「学生が自ら創る学生食堂」を実現することを到達点として、年度ごとのプロジェクトを構想しています。初年度の2021年はキッチンカーの導入や学生が作るお弁当メニューの実現を図りました。



▶ 関連TopicはP14をチェック!

▶ 関連TopicはP15をチェック!

# 部活・サークル紹介

## CLUB ACTIVITIES

vol.03

### 吹奏楽部

吹奏楽部は龍ヶ崎・新松戸両キャンパスにあり、演奏会やコンクール等には合同で出場します。現在は10名の部員で活動を行っています。人数は少ないものの、音楽に対する情熱を持った部員ばかりで日々楽しく活動しています。人数が少ないからこそ初心者でも活躍の機会が多くあることや、上下関係なく部員の仲が良いことが流通経済大学吹奏楽部の強みです。

2021年12月26日、新松戸キャンパス講堂にて毎年恒例のクリスマスコンサートを開催しました。新型コロナウイルスの影響のため、今年はweb上での事前予約制とさせていただいたにも関わらず受付開始から3日で定員となり、部員全員で喜びました。

クリスマスコンサート以外にもサマーコンサートやコンクール、地域の演奏会等様々なイベントを開催・出場するため、足を運んでいただけますと嬉しいです！また、入部希望者も随時募集しておりますので、初心者・経験者問わず誰でも気軽に体験に来てください！



活動日時・場所			
	活動日	時間	活動場所
新松戸	月・水	16:30-20:00	講堂
龍ヶ崎	月・水・木	16:30-18:00	澤村記念館



年間行事	
04月	新入生歓迎演奏会
06月	サマーコンサート
07月	コンクール前合宿
08月	茨城県吹奏楽コンクール
11月	アンサンブルコンテスト
12月	クリスマスコンサート
02月	龍ヶ崎ミュージックフェスティバル



## 08 「おもちゃSDGsアート」の展開



本学教員による提案時にプレゼンされた「おもちゃSDGsアート」

2021年11月に本学で発足した「新松戸アート化委員会」による企画。不用品となったおもちゃを集め、学生が解体し、子供たちに別のアート作品へと生まれ変わらせてもらう試みです。おもちゃの回収には新松戸キャンパスに隣接する幼稚園などに「回収箱」を設置する見込みで、地域連携の場としても期待されます。まずは、2022年1月に、実証実験として、おもちゃの収集、分解、組み立ての集いを学内で実施予定です。

## 09 松戸市とのさらなる連携

松戸市とはこれまでも市民向け講座の講師派遣などで連携してきました。今回、同市総合政策部地域共生課を中心に、市内15箇所の地区ごとに「まつどDEつながるステーション」と称する活動の場を創設する動きがあり、本学も同プロジェクトへ積極的に参加します。

- これまで
- 06月・第1回お弁当コンペティション (from 「食=SHOKUプロジェクト」)
  - 08月・ダイバーシティ共創センター設置準備室設立
  - 10月・であうアート展開催 (両キャンパスにて)
    - ・課外活動強化部推進室設立
  - 11月・新松戸アート化委員会発足
    - ・LGBTQの研修動画配信 (from 「ダイバーシティ共創センター設置準備室」)
    - ・障がい者チアリーディング実証実験実施
  - 12月・博報堂との特別連携講座実施→2022年度も継続

- これから
- 01月・ダンスクラス流経スクールスタート
    - ・おもちゃSDGsアートの集い実施 (from 「新松戸アート化委員会」)
  - 02月・防災シンポジウム開催
    - ・であうアート展開催 (RICOHアートギャラリーにて)
  - 03月・障がい者チアリーディング体験会実施→クラス化へ
  - 04月・ダイバーシティ共創センター設立
    - ・強化部としてのダンス部創設

## 07

### 課外活動強化部 としての ダンス部の創設



新松戸キャンパスにおける「アート化」の主施策として、2022年4月にダンス部を創設します。単なる大学のダンス部ではなく、「地域に向けてアートという表現方法で本学からのメッセージを発信する場」としてのダンス部です。現役の演技者として活動しているアーティストを指導者に迎え、将来的には20人~40人の演技者が所属する強化部としていきます。隣接地域から、新体操やチアリーディング、そしてダンスの経験者を新松戸キャンパスの学部に集め、おののが目指す表現の場として本学ダンス部を存在させることは、入学者数減少対策の一つとしても期待できます。

## 10

### 龍ヶ崎市・国土交通省・NHK 財団との連携による防災シンポジウムの開催

2022年2月6日に開催される防災シンポジウム。コーディネーターの依頼を龍崎副学長が受けたことから、地域連携のハブとなる形で本学も関わっています。また、2021年は龍ヶ崎市を流れる小貝川が決壊してから40年の節目でした。こうした災害の歴史をどのように次の世代に伝承するか、という視点から、本学学生をリーダーに、龍ヶ崎市内4高校の生徒約10名が、水害体験者への聞き取りや現地調査などを行うワークショップを事前に行い、シンポジウム当日にはその結果報告も行う予定です。

# PICK UP STUDENTS

## 学生ピックアップ

vol.03

2021年10月に開催された  
新松戸キャンパスでの  
学園祭「青春祭2021」。  
実行委員の学生たちが、  
厳しい環境の中どんな思いで準備に奔走し、  
開催に至ったのかを語ってくれました。

### 第15回 流通経済大学 青春祭2021

流通経済大学新松戸キャンパスでの学園祭。前年度はコロナ禍の影響で残念ながら中止となったが、今年度は開催日を例年の6月から移し、2021年10月10日にオンラインでの開催となった。有名アーティストのライブ、有志による学部紹介、ゼミ活動の紹介、学生インタビューなどのおよそ25本の動画を、当日YouTube上で順次公開するという手法がとられた。実行委員会は自治団体である学生会内に組織されている。



## 「青春祭」を途切れさせはしない



新松戸キャンパス1号館 学生会室にて

静かなる  
熱血メダネ



岡田怜磨さん

Ryoma Okada

第15回青春祭  
実行委員会委員長  
第17期新松戸学生会会長

### そこに青春祭は確かに存在したんです

3年生の僕らにとって青春祭は、1年生のときに少しだけ手伝いに参加し、2年生のときは中止になってしまったイベントです。だから、今年度はどうしても開催したかった。そして後輩たちに、青春祭の文化を残したいと強く思っていました。

青春祭は、キャンパスのお祝い事でありお祭りだと思っています。青春祭のコンテンツとしてアップした動画で、学生に楽しんでもらうことはもちろん、近隣の方々や、進学を考えている高校生にも、この学校をもっと知ってもらいたい。そういう意識で楽しめるものをつくりたかった。

一緒の場所にはいられなかったけれど、青春祭というのが確かに存在していたんだ、そう誰かの心に残ってくれば嬉しいです。

優しくも鋭い  
批評家



鶴田紘也さん

Hiroya Tsuruta

第15回青春祭  
実行委員会渉外担当  
第17期新松戸学生会渉外長

いじられ役の  
精神的支柱



須藤大介さん

Daisuke Sudo

第15回青春祭  
実行委員会副委員長  
第17期新松戸学生会副会長

### どんなかたちでも開催しなくては

2019年度の青春祭は、お祭りの渦中にある感覚で、準備期間から本当に楽しかったのを覚えています。それが一転、昨年度は中止になってしまった。だから今年度は早い段階から対面開催の場合やオンラインの場合に対応する、いろいろな準備をしていました。でも時間が経つにつれ、できないことが少しずつ増えていくような感覚があって、たまらない気持ちになりました。

もし今回開催できなかったら、雰囲気も運営方法も全くわからない状態で後輩に託さなくてははいけませんでした。そうしたら、どんどんとできないことを数えるだけになって、諦めてしまうかもしれません。だから、どんな状態でも、どんな出来でもいいから、前例を残さなくてはと思っています。

### 交流の場である学園祭になりえたか

アーティストなどの招聘<sup>しょうへい</sup>について、例年は企画会社にお任せをするのですが、今年度は僕たち学生が全てを引き受けました。オファーするときは、対面での開催を想定して動きましたが、オンラインでの開催が濃厚になってくると、それまでOKだった出演者から、観客がいないところでのパフォーマンスは遠慮したいなどの声があり、とても難航しました。気が気ではない時間を長く過ごすことになりましたね。

一方で、学生側が制作した動画は、正直もう少し面白くなったのではないかと、という反省があります。せっかく準備に時間をかけたのだから、誰もが見たくなるような、見ていて満足感を得るような動画制作を、なぜ一緒に目指せなかったかな、交流が足りなかったのかなと反省しています。

次期委員長兼  
おしやれ番長



森山悠宇さん

Yu Moriyama

第16回青春祭  
実行委員会委員長予定  
第17期新松戸学生会財務長

### 来年の委員長からの抱負

今年度の青春祭では、動画撮影や編集などを手伝っていました。先輩たちの姿や、ここでの話を聞いて、僕なりの「来年の青春祭」について考えていることをお伝えします。

まず、実行委員をはじめ、つくる側の学生たちが楽しむようなものにしたい、そう思っています。僕らが楽しめれば、全体も楽しめるはずですから。

今年度の青春祭で、オンライン開催という前例をつくっていただきました。課題もたくさん見つけれられました。だから、来年度は対面開催で、オンラインでのコンテンツも併用し、当日来れなかった学生や遠くにいる学生の家族も、一緒に楽しめるようなイベントにしたいと思っています。

#### 流輝会が「母校創立35周年記念同窓会」をオンラインで開催

本校卒業生で組織する流輝会（同窓会）は、2020年に開催する予定であった「母校創立35周年記念同窓会」を1年遅れて、昨年11月21日に「ホームカミングデー」としてオンラインで開催しました。吉田 功会長（第1期生）の挨拶を皮切りに林 静男校長が本校の近況報告などを交えて挨拶、DVD「母校創立からの歩み」の放映や現在の部活動の紹介、流経大柏にまつわる「あるあるクイズ」などで楽しんだあと、最後に教職員と卒業生個々人がオンラインで懇談しました。長引く新型コロナウイルスの影響で延び延びとなっていた行事ですが、何とか開催できたことは関係者にとって嬉しい限りです。

卒業生の皆様には、今後のご活躍をお祈りいたしますと共に、これからも引き続き本校を温かく見守ってくださいますようお願い申し上げます。



#### 2021年度2学期「全国大会出場」部活動紹介

ラグビー部は、千葉県予選決勝で専修大松戸高に50対13、サッカー部は9年連続の決勝対決となった市立船橋高に2対1で勝利し、揃って全国大会への切符を手に入れました。ラグビー部は27年連続29度目、サッカー部は3年ぶり7度目の出場で、共に千葉県代表の全国常連校としての活躍が期待されています。

2021年12月20日には、流通経済大学新松戸キャンパスに出向き、野尻俊明理事長と上野裕一学長への優勝報告、そして同22日には太田和美柏市長を表敬訪問、全国大会に向けて力強い激励のお言葉をいただきました。両部活動には、全国大会で再び「流経大柏」旋風を巻き起こしてくれることを期待します。

また、その他の部活動では駅伝部男子が全国高校駅伝県予選で3位に入賞、1位・2位が大会新

記録だったため、惜しくも全国大会出場を逃しましたが、その後に行われた関東大会では見事3位に入賞しました。女子サッカー部も県予選で準優勝して関東大会に出場しましたが、全国高校選手権出場までにはあと一歩でした。

これまで、新型コロナウイルスの影響が続いておりましたが、このところ運動部・文化部とも徐々に元気を取り戻しつつありますので、今後の活躍が楽しみです。



日通学園・流通経済大学への全国大会出場報告



柏市長への表敬訪問

#### 流通経済大学付属柏中学校、新校舎工事の進捗状況

2023年4月開校予定の付属中学校に関しては、前号・前々号でご紹介したとおりです。校舎新築工事も順調に進んでいます（写真は2021年11月25日現在）。付属中学校の詳細内容は、本校（付属柏高校）のホームページをご覧ください。  
<https://www.ryukei.ed.jp/>



[学生生活課]

鴻巣 快  
Kai Konosu

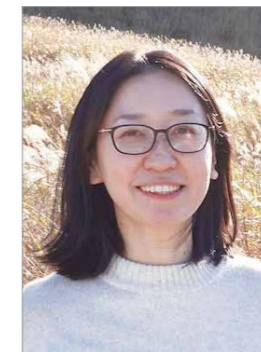
憧れから目標に  
目標から憧れに

学生時代を流経大柏、本学国際観光学科で過ごし、卒業後本学に就職しました。

当初は観光業界への就職を目指す学生でした。しかし、自身の学生生活を親身にサポートしてくれる職員に出会い、いつしか「自分もこのような職員になりたい」と「憧れ」が生まれました。それは次第に「目標」へ変化しました。RKUでの経験を、RKUの発展に役立てたい。学生と一緒に盛り上げたい。だから職員になりたい。それが叶ったあの日の喜びは、今でも忘れられません。

職員となりまもなく4年目。「学生第一」このモットーを胸に、日々自分の席に着いています。

ある日、学内でこう言葉をかけられました。「学生の手本になる、憧れられる職員になりなさい」このとき「今度は自分が”その”立場になった」と気づきました。私がとある職員に憧れを抱いた日から5年。自分は今、その素質ある職員となれたか。…遠く及ばないと感じます。だからこそ、これからも常に学生を思い、寄り添い、一人ひとりの学生生活を支えたいと思います。それがRKUの学生とRKUの輝く未来に繋がると信じて。



[社会学部]

谷口佳菜子 准教授  
Kanao Taniguchi

地域の魅力を見つけてみよう

私の専門は観光マーケティングです。講義では、「観光マーケティング論I・II」「観光経営学」「観光事業論」を担当しています。

特に近年は海外や日本のDMO (Destination Management/Marketing Organization) という、観光地域づくりを行う組織の活動に関心があります。例えば米国のDMOでも、ハワイやナバ・パレーなど組織によってその運営方法は様々で、地域にあった連携の仕方やプロモーションの方法があります。こうした海外の先進事例をみることは、日本のDMOを進めていく上での手がかりになりそうです。授業ではこうした内容に加えて、旅の経験談をお話することもあります。

ゼミでは地域と繋がるような活動を行っています。新松戸キャンパス周辺を歩いてまちの魅力を探したり、取材に出かけて地元の人と話し、その内容をまとめて発信したりしています。普段何気なく通り過ぎている場所も視点を変えればとても興味深いものです。さらに地元の人と触れ合い、新しいことを知ることは刺激的なものです。

これからも学生と一緒に考え、悩み、楽しみながら学んでいきたいと思っています。



[経済学部]

大久保和宣 准教授  
Kazunobu Okubo

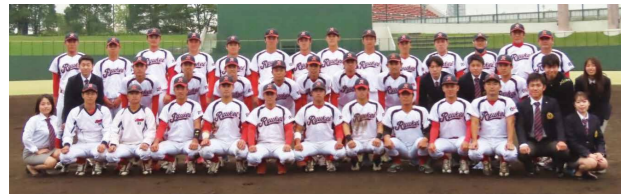
環境規制の費用便益分析  
一人々の生命と健康を  
価値づけて守る

大気汚染規制を強化すれば、それに対応するために、企業は設備投資を強いられます。これが規制の費用です。他方で、規制の強化によって、人々が呼吸器系の疾患で死亡したり、障害を負ったりする確率が減ります。これが規制の便益です。この事例の問題は、金銭額で表されていない便益を、費用と直接比べることができないということです。このような非金銭的な便益を価値づけるのに、CVM (Contingent Valuation Method) という手法がとられます。Contingentとは、「状況に依存した」という意味であり、Valuationは「価値づけ」という意味です。「死亡確率をX%だけ減らす効果のある規制の強化に、追加的な税負担を求められるとしたら、あなたは最大いくらまで払えますか」といった具合に、アンケートを用いて、仮想的な状況に置かれた人々から価値に関する情報を引き出します。

生命や健康の価値を金銭で表すなんてとんでもないと思われる方もいるでしょう。しかし、生命や健康を価値づけ、経済的な「費用」や「便益」の計算に入れるのは、より良い意思決定のためです。これらの価値をまったく考慮していないときよりも、われわれは良い選択ができるはずで

## 硬式野球部が 令和3年度秋季リーグ優勝 **9**

2021年10月25日、本学硬式野球部が、県営大宮公園野球場にて行われた創価大学との優勝決定戦に勝利し、5季ぶり31回目の秋季リーグ優勝を果たしました。



## 福井准教授の執筆書籍が 「地理空間学会 学術賞」を受賞 **10**

社会学部福井一喜准教授の著書である『自由の地域差：ネット社会の自由と束縛の地理学』（2020年、流通経済大学出版社）が「地理空間学会 学術賞」を受賞しました。



## 児玉教授の共同執筆書籍が 国際ブドウ・ワイン機構 (OIV) より表彰 **11**

流通情報学部の児玉 徹教授が海外の研究者と共同執筆した書籍が、ワインに関する世界最大の国際機関である国際ブドウ・ワイン機構 (OIV/本部：フランス・パリ) より、「カテゴリー：Vitivincultural Economy/ワイン経済分野」において2021年度の「OIV賞」に選出されました。

受賞したのは英語版書籍「Sustainable and Innovative Wine Tourism: Success models from around the world」とそのスペイン語版「Enoturismo sostenible e innovador. Modelos de éxito alrededor del mundo」です。

## 本学主催「であうアート展」の様子が NHKで取り上げられました **12**

2021年10月に新松戸・龍ヶ崎の両キャンパスで行われた「であうアート展」の様子がNHK Eテレ「ハートネットTV あがるアートの会議2021」で放送されたとともに、週刊誌『NHKウイークリステラ』に掲載されました。

「であうアート展」とは、障がい者支援施設「生活工房」に所属するアーティストたちの作品を本学に展示し、作品を通して学生、地域の方々、そして障がいのある方々が「つながる」「であう」場を創ることを目的として開催されたものです。[詳しくはP6をチェック!]



## サムソン・ディランゴさん 男子1部10000m優勝 **6**

2021年5月20日、第100回関東学生陸上競技対校選手権大会において、本学のサムソン・ディランゴさん(スポーツコミュニケーション学科1年)が男子1部10000mで優勝しました。1部校での優勝は本学陸上競技部創部史上初となります。



## 関東大学サッカー1部リーグ優勝 **7**

2021年11月13日、第95回関東大学サッカー1部リーグ対明治大学戦が行われ、本学サッカー部が12シーズンぶり4度目の優勝を決めました。昨年は2部リーグでの戦いとなりましたが、青貴 裁元コーチ(現J2京都監督)のもと1年で1部に復帰し、今季からは中野雄二監督(社会学部教授、課外活動強化部推進室長)が再び指揮をとるなか、1部復帰1年目で見事に栄冠をつかむことができました。



## 本学サッカー部から 12人がJリーグへ **8**

2022年は、本学サッカー部から選手12人がJリーグクラブ加入を果たしました。そのうちJ1選手は史上初の7人にのぼります。2022年1月7日に記者会見を行い、12人それぞれが抱負を語りました。



## 「食=SHOKUプロジェクト」始動 **1**

「Reborn RKU Vision」の一環として「食=SHOKUプロジェクト」が始動しました。食を通して学生・教職員・地域を笑顔で健康にすることを目指し、学生主体の若い力で学内外に開かれた取り組みを行う、5学部が揃う本学ならではのプロジェクトです。SHOKUはSmile / Health / Open / Kicky / Universityの頭文字にリンクしています。

第一弾では「お弁当コンペティション」を開催、「大学生が食べたくなるお弁当」をテーマに経済、社会、スポーツ健康科学の3学部から13チームが参加しました。講堂でのプレゼンを経て、約900票に及んだ投票の結果選ばれたのは「ねぎ塩だれピピンバ弁当」「生ハムユッケ丼」「豚・鳥・ピピンバのバリ丼」の3つ。12月に新松戸・龍ヶ崎の両キャンパスで販売されました。

また、本プロジェクトのロゴコンペも開催、総勢200を超える作品が応募されました。事前選考を経た選りすぐりの10作品から全学関係者対象のネット投票で選ばれたのは、亀崎 晴さん(スポーツ健康科学科4年)の作品。公式ロゴはそれをもとにブラッシュアップしたものです。2021年10月28日にはアイデアを称えて表彰式も執り行われました。



## 「学生が創る動画プロジェクト」が始動 **4**

「Reborn RKU Vision」の一環として「学生が作る動画プロジェクト」が始動しました。第一弾として、「食=SHOKUプロジェクト」におけるキッチンカー誘致の様態を、第二弾として学長インタビューを撮影しています。ぜひご覧ください。



第一弾「キッチンカー誘致」  
vol.1.2

第二弾「学長インタビュー」  
vol.1~3

## 『HERS』ワークショップ開催 **2**

2021年7月10日、「プレー・アカデミー with 大坂なおみ」の助成事業に採択された「女子ラグビーを通じた女性エンパワーメントプログラム『HERS』」の一環として、日本の女子ラグビーの礎を築いた岸田則子さんを付属柏高等学校にお招きし、ラグビーとジェンダー、そしてキャリアについて考えるワークショップを開催しました。本学女子ラグビー部「GRACE」の学生が、高校生たちに女子ラグビーの歴史、キャリアやジェンダーにおける課題についてクイズを交えて伝えながら、テーマにまつわる思い出や苦労話を岸田さんにお話いただきました。



## 埼玉県戸田市と包括連携協定を締結 **5**

2021年7月2日、埼玉県戸田市と本学との間で包括連携協定が締結されました。調印式において、菅原市長が「流通経済大学の学部が持つリソースを戸田市の発展のため活かしてほしい」と話されたのに対し、上野学長は「形だけの協定にとどまることなく、RKUの持つ資源を提供していきたい」と述べました。



## 日刊スポーツ新聞にコラボ記事掲載 **3**

今年もスポーツコミュニケーション学科の学生が日刊スポーツ新聞社とともに制作した記事が2021年11月25日号に掲載されました。

拡大版はこちら▶







## Jリーグ浦和レッズ加入が内定 宮本優太の「食生活」



現在の体脂肪率は8~9%。朝は1日のエネルギーになるので炭水化物をしっかり取ります。昼はこだわり過ぎると経済的に苦しくなってしまうので、うどんと卵がメイン。夜は炭水化物を控えめにして、栄養バランスが偏らないように野菜や副菜などでお腹を満たすようにしています。体質的に余分なエネルギーを残すと体重が増えてしまうためです。

カップ麺は好きなので決まった日に食べます。スナック菓子は禁止していますが、チョコレート類は食べたいときに食べます。パフォーマンス向上のために、練習後か筋トレ後、そして就寝前に必ずプロテインも飲んでいきます。

こうやれば100%プロになれるという方法はありません。ただ言えることはサッカーも食事も、決めた目標に向かって努力する人の方が可能性は高いということ。チャンスはどこに転がっているかわかりません。練習から常に100%で取り組むこと、そしてプロになるために……と考えるよりも普段から思いっきりサッカーを楽しむことが大事だと信じています。

先生から  
ひとこと



これからJリーガーとして活躍しようとする学生だからでしょうか、「食事バランス」、「補食」、「嗜好品の制限」など、食へのこだわりが多々見られました。また、学生ならではの経済面を配慮しながらの「食」へのこだわりを示している点は、工夫もしているのだなと伺えるインタビュー内容だったと思います。後輩たちや将来Jリーガーを目指す方々への刺激になる内容なのでは?! これからの宮本さんのJリーガーとしてのご活躍を楽しみにしたいですね。

※本記事は、食=SHOKUプロジェクトの一環として、スポーツ健康科学部3年生の学生たちが宮本優太さんに行ったインタビューのレポートを編集したものです。

食=SHOKU  
プロジェクト  
オフィシャルWEB



宮本優太さん  
インタビュー  
レポート



### 編集後記

- 本学は今秋から、対面授業を全面的に再開している。学生が戻ってきたキャンパスは、それまでの静けさとは打って変わって、活気を取り戻しはじめている。学生たちの表情は、マスク越しでも、明るい。
- 学生だけではない。本学は今、地域に対しても、開かれた存在になろうとしている。本年度は、「旅する絵のプロジェクト」や「食=SHOKUプロジェクト」といった企画が、新たに立ち上げられ、これまで実施されてきた。本誌でも紹介させていただいたとおり、いずれの催しも、幸いなことに、多くの来場者に恵まれることができた。もちろん、

これまで行われてきた公開講座、公開シンポジウム、公開コンサートなども、市民の方々に向けて、引き続き積極的に行なっていく予定である。

- 建物があっても、人がいなければ、大学は静けさに包まれたままである。学生、教職員、地域住民の方々それぞれが、足を運び、語り合い、交流していく中で、キャンパスはより豊かな場へと、生まれ変わっていく。コロナ禍が教えてくれた、この大切な教訓を、私たちは決して忘れてはならないだろう。

**RKU** 流通経済大学

学報 **RKU Today** vol.42 2022年1月発行  
編集・発行／学校法人日通学園 流通経済大学 学長室  
千葉県松戸市新松戸3-2-1 〒270-8555 gcs@rku.ac.jp

